

大学生の学習活動と資格取得に関する調査

○山田 浩之（広島大学）

○葛城 浩一（広島大学）

1 研究の目的

本報告の目的は現代の大学生が資格取得に対してどのような意識を持っているのかを明らかにし、それが大学生の学習活動や就職行動に与える影響を検討することにある。

報告者の一人である山田は、地方私立大学の新入生に関する調査(山田 2003)、また2003年の日本教育社会学会第55回大会での報告「地方都市における学生文化の形成過程 — 愛媛県松山市の事例を中心にして」などにおいて地方都市における学生文化に関する検討を行ってきた。その過程で、現在の地方私大の大学生が1)大学での学習による知識・技術の獲得を非常に重視していること、2)学習内容を就職と結びつけて考えていること、そして3)資格取得への志向が非常に強いことなどを明らかにした。

たとえば山田(2003)は愛媛県の松山大学経営学部における新入生調査により、松山大新入生の資格志向が極端に高いことを指摘している。例えば松山大新入生のうち94.3%が何らかの資格を取得したいと考えており、また「資格取得のための学習・受験指導」を大学に期待する者は90.8%に達していた。さらに「情報処理関係の資格」「簿記の資格」の取得を希望する者はそれぞれ61.4%、76.6%に達し、「税理士・会計士」という専門職の資格取得希望者も41.3%と非常に高くなっていた。経営学部という学部の性格を考慮しても、こうした資格取得に関する意識は非常に高いといえる。

また昨年の日本教育社会学会第55回大会での報告では次の5点を明らかにしている。

1)大学生の多くが資格に関心を持っており、実際に約8割の学生が資格試験を受験したこと

があるか、受験したいと考えている。

2)現在の大学での授業は資格に役立たないと学生は考えており、将来の職業、そして資格取得に役立つ授業を期待している。

3)女性、私立大学、社会科学、人文科学の専攻で資格試験を受験した者が多く、自然科学系では資格に否定的である。

4)資格意識を構成する因子として「精神的効用」「実利的効用」「資格否定」が抽出され、女性、人文科学専攻の者で「精神的効用」が高く、男性、社会科学専攻で「実利的効用」が高くなっている。

5)「精神的効用」は真面目な優等生タイプに多く、実際に試験を受験して自らを精神的に高めようとしていると考えられ、「実利的効用」は学生のサブカルチャーを重視する者が多く、学習面での不利を補うために資格を取りたいと考えていると推測できる。

以上のような結果から、少なくとも地方都市の大学生に関して言えば、学習行動が大きく変化していると言えよう。図1-1に示すように学習行動は「就職」や卒業後の「職業」によって強く規定されるようになってきている。これらの結びつきを強化するために用いられているのが資格である。

「大学のレジャーランド化」という言葉が表していたように、かつては大学での学習は軽視されてきた。つまり大学で学ぶ知識や習得する技術はあまり重要なものとはみなされていなかった。それよりも大学を卒業したという大卒の肩書き、すなわち学歴が重視されてきた。これまでの学歴社会論の多くが批判してきたように、日本の大学では何を学んだかよりも、どの大学を卒業したかが重要であった。

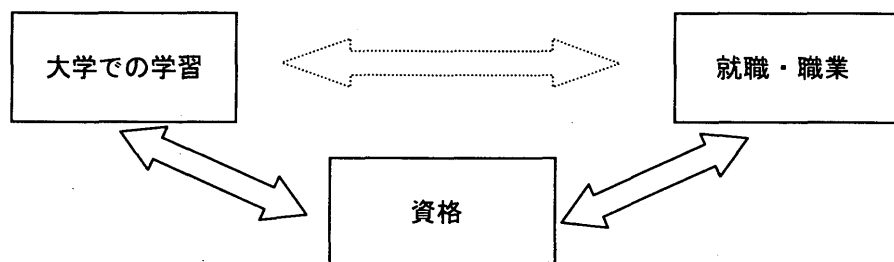


図1-1 大学での学習、就職・職業、資格の関連

しかし、先に指摘したように、現在は大学での学習内容を重視する学生が増加している。大学を就職と職業に役立つ知識と技術を習得する場だと多くの学生が考えるようになっている。

そうして身につけた知識や技術を証明するものが資格である。学生にとって資格は自身の価値を示すシグナルであり、それによって就職や卒業後の職業が有利になると考えられている。

かつて、こうした資格と同じ位置づけがなされていたのが学歴であった。より高い学歴を手に入れば、より良い就職がもたらされると誰もが無批判に考えていたのが、学歴主義が問題とされた社会だったといえよう。現在はそれが学歴ではなく資格へと変化した。つまり、現在の社会は多くの人々が「学歴」を求めて奔走した学歴主義の社会から、多くの人々が「資格」を求めて奔走する資格主義の社会へと変化しているのかもしれない。

こうした関心から本報告ではまず現在の大学生の学歴主義意識について検討を行う。その後、

学生の資格意識に焦点を当てて分析することで、現代社会における資格へのまなざしの一端を明らかにする。

2 学歴主義意識の変化

日本の学歴主義は明治期に制度化されたとされる。学歴による地位の格差は明治期には非常に大きなものであったが、戦前から戦後にかけて次第に縮小してきた。また学歴をめぐる意識は1970年代のような受験競争の激化に見られるように、戦後、社会問題として大きく取り上げられるようになった。だが、1980年代以後、学歴主義の意識は次第に薄れていったように見える(山田 2004 7章)。

それでは、現在の大学生の学歴主義意識はどのようなものなのだろうか。現在の大学生の学歴主義意識については、その学習観や就職意識を検討することで明らかにできよう。表2-1～表2-3はその一例である。

表2-1 1年次から4年次までの大学での授業全体を通して、下のような項目にどの程度期待しますか？

		とても 期待する	少し 期待する	あまり 期待しない	まったく 期待しない	計
1	一般常識が身につく学習	33.5	50.9	13.3	2.3	100.0(1,977)
2	歴史や文学の知識が身につく学習	10.6	36.0	44.8	8.6	100.0(1,974)
3	自然科学の知識が身につく学習	13.2	33.6	43.5	9.7	100.0(1,974)
4	専攻分野の専門知識が身につく学習	54.0	36.3	8.4	1.3	100.0(1,974)
5	物事の見方や考え方を養う学習	40.0	45.7	12.2	2.0	100.0(1,973)
6	英語の能力が身につく学習	28.0	34.6	27.3	10.1	100.0(1,975)
7	英語以外の外国語の能力が身につく学習	14.4	36.9	35.5	13.2	100.0(1,975)
8	資格取得につながる学習	48.2	34.4	14.4	3.1	100.0(1,977)
9	コミュニケーションの力をつける学習	30.2	42.1	22.9	4.8	100.0(1,975)
10	日本語の文章力をつける学習	22.4	42.4	29.2	5.9	100.0(1,973)
11	プレゼンテーションの力をつける学習	27.3	45.4	23.5	3.8	100.0(1,971)
12	コンピュータの技術を身につける学習	38.1	42.8	14.7	4.4	100.0(1,973)
13	卒業後の職業に役立つ学習	57.1	29.4	10.0	3.4	100.0(1,975)
14	卒業後の私生活や趣味に役立つ学習	25.6	38.5	28.7	7.3	100.0(1,975)

表2-2 あなたが授業を選択する際、下のような項目を重視しますか？ 重視するものすべてに○をつけてください。

		はい	いいえ	計
1	講義内容	79.9	20.1	100.0(1,977)
2	単位の取りやすさ	66.5	33.5	100.0(1,977)
3	教員の人間性	41.2	58.8	100.0(1,977)
4	友人や先輩の意見	42.5	57.5	100.0(1,977)
5	資格との関連	26.8	73.2	100.0(1,977)
6	出席を取るかどうか	26.6	73.4	100.0(1,977)
7	開講時間	35.1	64.9	100.0(1,977)
8	友人の受講状況	19.4	80.6	100.0(1,977)

表2-3 企業が採用を決定する際に次のような項目は大きな影響を与えますか？

		影響する	影響しない	計
1	資格	81.3	18.7	100.0(1,980)
2	学歴	51.8	48.2	100.0(1,980)
3	大学の名前(社会的評価)	33.7	66.3	100.0(1,980)
4	大学での成績	53.9	46.1	100.0(1,980)
5	性別	16.4	83.6	100.0(1,980)
6	容姿	17.8	82.2	100.0(1,980)
7	サークル活動	16.0	84.0	100.0(1,980)
8	人格	74.2	25.8	100.0(1,980)
9	コネ	36.3	63.7	100.0(1,980)

3 大学生の資格取得

(1) 大学生の資格取得に関する先行研究

これまで「資格」が研究対象とされる場合には、資格の法的裏づけや、資格の領域、資格の機能などを特定し、考察の対象とする資格を限定するのが一般的であり、資格取得者に目が向けられることはほとんどなかった。しかし最近では、資格に対する関心の高まりを受けてか、大学生の資格取得に特化した調査研究も行われてきている（青島1997、生田目2000、小林・竹上2001、曾我ほか2002、中島ほか2002等）。

しかし、こうした先行研究も大学生の資格取得についての実態把握にその主眼が置かれており、学習活動や就職行動との関係の中で十分に検討されてきたとはいえない。

そこで以下では、アンケート調査の結果をもとに、大学生の資格取得についての意識や実態を明らかにするとともに、それらと学習活動や就職行動との関連について分析を試みる。

(2) 調査の概要

アンケート調査は2004年8月に、M大学経営学

部の専門の授業時間を利用して行ない、140名の学生から回答が得られた。性別では男性47.9%、女性52.1%とやや女性のほうが多く、学年別では2年生34.3%、3年生27.1%、4年生38.6%と、4年生のサンプルを比較的多く集めることができた。学部別では経営学部75.7%、人文学部10.7%、法学部が13.6%と、経営学部の学生が大半を占めている。

(3) 調査の結果

調査結果の一部を表3-1、3-2に示した。調査結果の詳細は当日配布する資料に譲りたい。

参考文献

- 青島裕子 1997 『ジェンダー・バランスへの挑戦—女性が資格を生かすには—』学文社。
 大阪大学・大学院人間科学研究科教育技術開発学研究室 2004 『大学生にとって、いま「大学」とは？』（「大学生の生活意識に関する調査」報告書）。
 小林勝法・竹上健 2001 「職業技能関連資格の取得に対する高校生と大学生の意識と実

- 態』『文教大学国際学部紀要』12(1)。
- 曾我雅比兒ほか 2002 「大学生の資格取得に関する意識調査報告（その1）－岡山理科大学生の学業、資格取得への関心と態度－」『岡山理科大学紀要』第38号。
- 武内清編 2003 『キャンパスライフの今』玉川大学出版部。
- 中島弘徳ほか 2002 「大学生の資格取得に関する意識調査報告（2）－岡山理科大学生の学業、資格取得への関心と態度」『岡山理科大学紀要』第38号。
- 生田目康子 2000 「資格取得にみる学生の意識調査」『小松短期大学論集』第12号。
- 藤井泰・山田浩之 1998 『松山大学卒業生のキャリア形成』松山大学総合研究所所報第22号。
- 山田浩之 2003 「地方私立大学における新入生の学習志向－松山大学経営学部新入生調査を中心にして」広島大学大学院教育学研究科教育社会学研究室『教育社会学研究年報』第6号。
- 山田浩之 2004 『マンガが語る教師像』昭和堂。

表3-1 以下の資格についての一般的な考え方はあなたの考え方にどの程度あてはまりますか？

		とてもあてはまる	ある程度あてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	計
1	資格を持っていると就職活動で有利になる	38.1	41.0	14.4	2.9	3.6	100.0(139)
2	資格を取ると大学の成績もあがる	6.4	19.3	49.3	16.4	8.6	100.0(140)
3	学歴よりも資格のほうが重視される	9.3	28.6	42.9	13.6	5.7	100.0(140)
4	資格を取ってもあまり意味はない	2.9	5.7	22.9	42.9	25.7	100.0(140)
5	資格取得のための勉強は大学の勉強を邪魔する	1.4	7.2	34.5	38.8	18.0	100.0(139)
6	資格取得のための勉強はやりがいがある	22.1	50.0	22.1	5.7	0.0	100.0(140)
7	資格取得のための勉強で人間的に成長する	12.1	37.9	39.3	7.9	2.9	100.0(140)
8	資格試験に合格すると強い達成感が得られる	50.7	32.9	13.6	1.4	1.4	100.0(140)
9	資格を取得すると自分に対する評価があがる	22.1	47.9	24.3	4.3	1.4	100.0(140)
10	資格取得には高額な費用をかける価値がある	8.6	17.1	45.7	21.4	7.1	100.0(140)
11	偏差値の高い大学よりも資格をとれる大学のほうが優れている	9.3	14.3	60.0	10.7	5.7	100.0(140)
12	資格を持っていると、自分の希望する職業(職種)につける	7.1	28.6	42.1	18.6	3.6	100.0(140)
13	資格を持っていると、就職後の給料がよくなる	12.9	33.6	41.4	9.3	2.9	100.0(140)
14	資格を持っていると、昇進などに有利になる	10.7	37.1	41.4	6.4	4.3	100.0(140)
15	資格を持っていると、転職や独立がしやすい	17.1	37.1	33.6	8.6	3.6	100.0(140)
16	資格を持っていると、「いざというとき」役立つと思う	31.4	50.0	13.6	3.6	1.4	100.0(140)
17	資格は自分の実力を証明するのに役立つ	21.4	47.1	25.7	4.3	1.4	100.0(140)
18	資格はないよりもあったほうがいい	74.3	20.7	4.3	0.0	0.7	100.0(140)

表3-2 以下の資格取得に関する一般的な態度はあなたの考え方にどの程度あてはまりますか？

		とてもあてはまる	ある程度あてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	計
1	なるべく受かりやすい資格を取得する	5.2	40.0	37.0	12.6	5.2	100.0(135)
2	できるだけ多くの資格を取得する	10.4	38.5	29.6	17.8	3.7	100.0(135)
3	みんなが持っている資格をとりあえず取得する	4.4	20.7	45.9	20.7	8.1	100.0(135)
4	資格の認定先や社会的評価をよく調べてから取得する	9.0	41.8	37.3	8.2	3.7	100.0(134)
5	自分のキャリアプランに沿った資格かどうかをよく考える	25.2	46.7	22.2	3.7	2.2	100.0(135)
6	自分の専門にあった資格を取得する	27.4	49.6	15.6	4.4	3.0	100.0(135)
7	他の人が持っていない難しい資格を取得する	2.2	12.7	50.7	26.1	8.2	100.0(134)
8	転職や転職に有利な資格を取得する	17.2	41.8	35.8	3.0	2.2	100.0(134)